



日本ボーイスカウト神奈川連盟 川崎スカウトクラブ

巻頭言

[カーボンニュートラルが創る新時代]

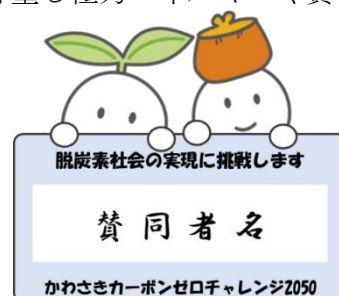
会長 谷本 通安

世界各国が今世紀半ばを見据えて新しい環境目標を相次いで打ち出し、日本も「2050年カーボンニュートラルを目指し2030年の温室効果ガス排出削減目標（実質ゼロ）を30年度に13年度比46%削減」を基本理念として表明。また川崎市も脱炭素戦略「かわさきカーボンゼロチャレンジ2050」を策定して臨海部を核に水素基本戦略（水素供給システムの構築、水素利用の拡大、社会認知度の向上）を市民・事業者が一体になって持続可能な未来社会の実現に向けての取り組みを示した。



国連も2050年までにカーボンニュートラルを実現する為のコミット企業を増やすように「Race to Zero」キャンペーンを展開することになり、この大きな潮流から逃れることは出来ず、地球環境を破壊し人類の未来を脅かす地球温暖化への危機意識が急速に世界へ広まり「脱炭素社会」に向けて大きく動き始め、政府も「グリーン成長戦略（経済と環境の好循環を作る産業政策）」

を発表し、温室効果ガスの削減と経済成長につなげる意思をようやく鮮明にした。環境政策に積極的でなくむしろ経済の足枷と認識され天然資源に乏しい我が国は化石燃料をどちらかと言えば確保すべきとしていた産業界も安定供給や経済性よりもカーボンニュートラルを最優先に持ち出す必要に迫られるに至り、政府と産業界はようやく本格的な経済成長と気候変動のデカップリング（切り離す）可能と舵を切った。「地球資源には限界がある」ことが判明し企業と社会が「共通価値の創造」という考え方にに基づき新たに自浄機能を備えた体制を構築する動きが地球規模で排出量をゼロに流れ始め、その代表格「二酸化炭素」を「二酸化炭素ゼロ」「脱炭素」を合言葉に各企業も表明し本腰を入れているがハードルは高く実現には飛躍的な技術革新と経済社会の構造転換も欠かせない。因みに今年の干支丑（牛）は今、地球上に約15億頭が約77億人の為、肉牛や乳牛として飼育されており、牛の「ゲップ」が地球温暖化の原因となるメタンを排出、国連食糧農業機関（FAO）によれば世界中に排出される温室効果ガスの約14%が家畜由来で2/3が牛のゲップだそうである。課題としては、これまでの延長では駄目で消費者の意識改革も不可欠で無駄をなくし、もったいない精神を尊重し極力エネルギーや資源を使わないよう行動変革を自発的に促す方策「ナッジ理論（ひじでつつく）」で温室効果ガスの排出量を削減する。その上で産業界と消費者の双方が連携して進めるべき領域「サーキュラーエコノミー（循環型経済）」による産業転換こそが望まれ、我々も生活様式を大きく変える必要が求められており、カーボンニュートラルを、避けられない今、とてつもなく時代の大きな転換点にいることを忘れてはならない。



〔令和3年度・表彰者〕

6月19日、永年に亘りスカウト活動に貢献された方々の「功労者表彰・伝達式」が神奈川連盟で行われました。スカウトクラブ会員の皆様、おめでとうございます。(敬称略)

- ・日本連盟表彰 功労章〔かつこう章〕
境 伸隆 川崎第57団 VS 隊長
- ・神奈川連盟表彰 功労章〔県連特別有功章〕
佐藤 周一 川崎第26団 BS 隊長
内田 治彦 川崎第57団育成会長
梅原 英毅 川崎スカウトクラブ
高安 征夫 川崎スカウトクラブ
市野 英一 川崎スカウトクラブ



表彰式参加の皆様

〔フォロワーシップについて〕

小川 芳郎

組織における業務の成果に対してリーダーの影響力は10～20%といわれる。対してフォロワーの影響力は80～90%と大きく、成果の大きさはフォロワーの活動に左右されることが指摘されている。フォロワーシップとは組織集団の目的達成に向けてリーダーを補佐する機能・能力である。

補佐をする機能を通じて自分の能力を認識し、それに対して不足することがあれば、自分で考え

たことをリーダーに相談しながら、自分を表現する力を伸ばしていく。従って、**Good Followership**とはメンバーとして指示待ちをする人間でなく、一人一人が自分で考える集団になることである。人間的な好き嫌いに依存することなく、上司と仕事をすることになることである。上司の立場で考えることにより、リーダーとしての予備的訓練になる。一方でリーダーとなる(〇〇長)という人は、相談されやすい環境づくりを心掛けることが大切である。リーダーによって組織の目的や方針が示されたら、フォロワーがブレイクダウンして実現可能な施策や計画に落とし込んでいくということである。リーダーシップの焦点が「決定する」に対して、フォロワーシップの焦点は「健全な提言ができる環境にあること」である。フォロワーシップは部下の立場の人のためであると定義したが、実際の組織では、リーダーとしての立場にある人にも求められる。具体的には次の2種類がある。1つとして班長は上級班長に対して、上級班長は隊長に対して、隊長は団委員長に対してフォロワーシップ(補佐・提言)が求められる。

もう1つは任務遂行における考え方である。チームの中では、役職の上下に関係なく、そのテーマや課題において一番当事者意識や経験のある人が権限を獲得してリーダーシップを発揮した方がよい結果を出せる。リーダーは自分の役職や肩書に関係なく、リーダーシップを発揮している部下に対してフォロワーシップを発揮すること。つまり班長が班員にある分野の仕事を任せてリーダーとして「決定」を委任する。これで班員の方で任務への当事者意識とモチベーションが高まり「自分で決定したこと」を経験することになる。

班員に十分な経験や知識があればリーダーを任せ、班長が意識的にフォロワーシップを発揮すれば、班員はのびのびと楽しく活動できてパトロールチームとしても強くなれる。



〔東日本大震災後の復興事業〕

渡部 公

2011年3月11日発生した〔東日本大震災〕から10年が経ち、復興の様子が報道されました。

何回か現地に足を運び少しばかり復興のお手伝いをしたので感慨深いものでした。

〔岩手県陸前高田市〕

震災直後、友人から「復興ボランティアへ行かないか」と再三誘われましたが、家族に「70の年寄りが行っても現地が迷惑だ」と反対されて参加を見合わせました。その後〔被災地応援ファン〕があることを知り、陸前高田市の企業2社にささやかながら応援の出資をしました。出資額の半額を寄付にして半額を5年で償還するものでした。

翌年2012年4月現地見学会に参加した時は、瓦礫はまだ片付かず道路脇に漁船が何隻も残っていたり建物も壊れたままの状態でした。“奇跡の一本松”も枯れかかっていたいました。

2社の内1社は順調に立ち直り5年後に出資金は償還されましたが、もう1社は新工場を建て事業を再開していますが計画通り回復していない状況です。2014年7月路線バスで陸前高田市を通った際は、街全体を高台に移転するための埋め立て用土砂を移送する太いパイプが見えました。この事業は昨年度で完了して新しい街作りが進んでいます。



〔宮城県名取市・海岸林再生プロジェクト〕

・関わったきっかけ

〔かわさき市民アカデミー〕“環境とみどり”講座コーディネータ太田猛彦先生（東京大学名誉教授）に師事しています。震災直後、林野庁で「今後における海岸防災林の再生について」専門家会議が持たれ太田先生が座長を務められました。東北の震災や今後予想される南海トラフ地震も視野に入れて「海岸林を防災・減災に役立てる」ための討議され、先生から途中経過も含めて解説を聞きました。

・名取市海岸林再生プロジェクト

名取海岸の松林は、関ヶ原の戦いがあった年に（1600年）藩主伊達政宗が領内の砂浜を水田として開発するため、砂よけ、風よけに松を植えさせたと記録されています。（この説に異を唱える研究者もいますが）江戸時代から太平洋戦争後まで松林は維持されて、地域住民は松林と共に生活して恩恵を受けていましたが、2011年3月11日津波により一瞬して松林は倒木の林に姿を変えました。



震災前（2010年7月撮影）



被災直後の名取市海岸林

そして名取市の海岸林再生事業に、国際NGO公益財団法人〔オイスカ〕が名乗り出ました。

プロジェクトの概要は10年間で100haに松40万本を植え地元11,000人の雇用を創出する。プロジェクト予算総額10億円を寄付でまかなう。という壮大なものでした。オイスカは東南アジアで植林・技術者養成での実績があるとは言え、このような大事業に驚かされました。

地元説明会での協力依頼、土地を所有する国、宮城県、名取市等への折衝を経て、事業協定を結びプロジェクトは直ちに開始されました。

被災農家による「名取市海岸林再生の会」が発足して、2012年3月種まきから始めて苗木を育て植え付のスタートは2年後の2014年4月でした。

・現地見学会、プロジェクト進行

“環境とみどり”講座でオイスカ担当者からプロジェクトの講義を受けたのを機会に2015年10月

受講者有志で名取市の現地見学会を実施しました。



同行した太田先生から、育苗の現場と“コンテナ苗”を採用している理由等の説明が

ありました。松の成長は早く種を蒔いて2年程で植えることが出来るそうです。

海岸林再生プロジェクトは「名取市海岸林再生の会」が苗木育成を担い、植え付は主に宮城県森林組合のプロが担当する、オイスカは寄付を集めて資金を作る、ボランティアにはその都度作業をお願いする、と概ねの役割分担で進行了しました。

私はオイスカに協力しています。2014年4月28日記念すべき植樹が開始され、第1回植樹祭は2014年5月24日ボランティア350名が参加して行われ、約1haに苗木5,000本を植樹しました。ボランティアは支援企業が募集して参加する人、県庁・市役所の職員、地元の中・高校生等、地元の方以外に関東地区からも定期的に個人で参加する人も多数いるそうです。



2014年植栽箇所遠景(2015年撮影)



2014年植栽箇所遠景(2020年撮影)

本来、公共事業として実施されるべき海岸林再生事業を一国際 NGO 団体が引受けて、第1次計画の10年が経過して実績報告がなされました。

2021年1月報告

名取市内海岸5kmがクロマツでつながりました。

植栽本数 370,200本 植栽面積 72,460ha
雇用総数 9,100名 寄付金総額 8億9千万円
ボランティア総数 約12,000名

2020年3月以降は、コロナ禍により計画通り進められず遅れましたが、第1次プロジェクトは予定通り今年度で終了しました。

今回の事業の取材を続けた前日本経済新聞社記者の小林省太氏が2020年12月【松がつなぐあした】「震災10年海岸林再生の記録」を愛育出版社より出版されました。この事業を立案したオイスカ吉田俊通・海岸林担当部長のバイタリティの



凄さや「名取市海岸林再生の会」の運営についても詳しく紹介されています。この中で驚いたのは、被災農家の避難所で行われた「海岸林再生についての説明会」に太田先生が講師で参加して事業の必要性を説いていたことでした。先生の情熱に改めて感心しました。「海岸林の松は津波で全て倒れたので松での再生は駄目だ」という意見もあり、名取市の南隣、岩沼市では広葉樹“タブノキ”を主



成長した「松」

体に再生事業を実施しましたが今も余り育ってなく“海岸にはクロマツ”の言い伝えがあたっているようです。今はコロナの大流行で旅行ができませんが収束したら名取市へ行き、成長した「クロマツ林」を見学したいと考えています。

(写真の一部はオイスカ HP より引用)

《ジャンボリー物語》 [第8回日本ジャンボリー]

鈴木 秀明

昭和 57 年(1982)8 月 2 日から 6 日まで「友情と躍進」をテーマに宮城県白石市蔵王山麓で 3 万名が参集した [第 8 回日本ジャンボリー] へ指導者



として参加してから既に 40 年近い年月が流れました。ちょうど台風が北上中で、泥まみれでサイトを設営、まるで田んぼにテントが浮かぶような状態が何日も続きました。

スカウト時代に参加した滋賀県饗庭野で行われた、第 2 回日本ジャンボリーも大雨、9N J は隊長役で参加しましたが又々台風に遭遇、私が参加したジャンボリーは全て大雨と強風の戦いでした。

思い出の 8N J 神奈川第 22 隊に所属、現在地区などでご活躍の若き 30 歳の長谷川博之隊長の下、私と同年代の橋本氏が副長、隊付の若きローバースカウトや副長補を含めた隊編成は、悪天候の中抜群のチームワークを発揮、まさに苦あつての結束が隊全体に広まり派遣スカウトから落伍者や泣き言を吐く者はひとりも出ませんでした。

このジャンボリーで“スカウト魂”を間近に感じる貴重な体験をさせていただきました。



当時私も 38 歳、現在の半分の年齢で仕事をやり繰りして参加したので、残念ながら閉会式まで留まることが叶いませんでした。

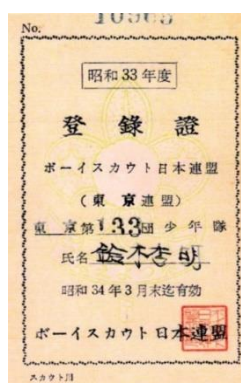
特に残る思い出は、所属団 43 団の団委員長を務めていた山口光雄氏が軽トラックを運転、予告なしにサイトを訪問して暖かい激励の言葉は、悪戦

苦闘の最中にあつて感激に浸りました。

また、帰り道には私を助手席に乗せていただき、長い道のりを黙々と一人で運転され、横にいる私はキャンプ疲れで失礼とは知りながらも爆睡状態のまま自宅まで送っていただきました。

振り返ってみても当時の団委員長のタフでパワフルな行動を忘れることが出来ません。

既に 17NSJ を終え「スカウトジャンボリー」と名称が変わりましたが、スカウトの祭典は永遠に続きます。スカウトや指導者にとってジャンボリーへの参加は生涯忘れられない思い出となります。



追記:鈴木さんは小学生から東京第 133 団 (現、世田谷第 10 団) 少年隊スカウトでした。隊長は、神奈川連盟で GATC (ゴールデンアックストレーニングコース)、カラーチームの創設期から大活躍した県央地区 稲葉睦美氏でした。(渡部)

[身体にいい話 伝統食品の梅干]

今村 文彦

「梅の季節が来た。つまり保存用の梅干を漬ける月でもあり、青梅を“かりかり漬け”にしたり、ふくめ煮したりする月である。ぼくは梅干が大好きだし、漬けるのも毎年のことで、軽井沢には、早や四年この方、地方産別に漬けた壺が五つ六つある。……」(水上勉「梅干」)

たまたま見つけた「酒と肴と旅の空」(池波正太郎編、光文社)に載っていた。

軽井沢を kawasaki に改めたら、ほぼ自分もこの通りだな、と嬉しく目を通した。最も壺には漬けれないし五つ六つはないが、親兄弟からの年代物もあつて梅干しには不自由しない。

この季節、梅干しの話を置いてきぼりにはできない。何だ梅干か、何故いま梅干なんだい？

何より本人の好みだから、毎朝の食前、お茶と梅干は 365 日欠かせぬ食品であること、だからだ。

80 歳になってますます元気でいられるのは、梅干様のおかげだ、と信じているからである。

改めてよく調べてみると、その効用が半端でない。

(梅干の機能性) 疲労回復 食欲増進効果 抗菌作用 カルシウム吸収促進 胃がん発生の抑制 動脈硬化の予防・・・(一般財団梅研究会、梅干博士和歌山大学宇都宮教授 紀州梅効能研究会に詳しい) 酸っぱいので酸性食品だと誤解されているが、梅干はアルカリ性食品だ。現代人はストレス等々で身体が酸性に偏っている、私も調べるたびに医者から「少し酸性気味」と言われているのでうなずける。梅干は酸性を中和してくれる。牛肉 100 g 食したとき、酸性を中和するには、きゅうり 900 g 約 9 本必要だが、梅干し 1 個でいい、そうだ。中でも、年を重ねた我々が最も注目すべきは「動脈硬化の予防」だ。血液の流れを滑らかにし、脳梗塞や心筋梗塞を予防するからだ。

梅の実が色づくのを待って、さあー「梅干づくりのこの季節を逃すまいぞ」の気合さえあれば、手間もお金もたいしてかからず、誰にでもつくれる。ここがいいところだ。

最後に、水上勉「梅干」から、推奨の梅干の食べ方を記す。梅干の肉を甘味噌にまぜてすり鉢ですって酒の肴に。大粒の肉の厚いのは砂糖を煮てとろりとした汁をかけスプーンで吸ってもらう。ブランディに合うそうさ。(NT)



私の手作り・今年の梅干

〔酒は百薬の長・・・か？〕

井村 修治

酒を止めたら、痩せました。と言うことは今まで、酒のお陰で命をつないで来たのでしょうか！

もっぱら酒で栄養を補給してたのでしょうかね！「急に年取ったよう

だ。貧弱に見える。年寄り臭くて見つとも無い。」

こんな言われ方もチラホラです。

コンビニで、近頃はやりの淹れたてコーヒーを買うべく、やり方を訊ねた時も、まるで老人扱い！

「おじいちゃん、カップを持ってこっちに来て」・・・ム、ムム！

◎そこで、物忘れの激しい、自称にあらず、他称(多少?)は老人が身分証明書を持たずの外出で出来(しゅったい)した悲劇を一席。

題して「人も機械も皆ロボット、おまけに私は老人ボケ」をお届けします。

暇があったらお読みください。

○老人一人でハイキング、雨に濡れた千円札

コロナを避けて、高尾山に一人でハイキングに出



かけました。雨が降っていて、人もまばら。よく落とすので、万一を考えて貴重

品は一切携行しません。ポケットには千円札二、三枚と、プリペイドのスイカ。

○寄り道

帰りにふと気分を変えて、秋葉原電気街に足を延ばしたのですが、料金不足で改札の遮断機が開きません。警告音でオタオタするも一瞬の事、不足料金をチャージしようと、ポケットのお札を取り出しました。

○ロボットは正しい・・・「微笑ましい愚直さ」

少し濡れている。予感的中、機械がお札を受け付

けません。ロボットだからしょうがないですね！

○ロボットとどっこい・・・「寂しい」

改札脇の駅員に助けを求めると、「少し待って、乾かしたら！」との有難いアドバイスを頂きました。

○ロボットとどっこいⅡ・・・「少し人間らしさが」
体も濡れているとの訴えに同情して頂けたのか、不足分を清算してくれました。濡れた千円でお釣りを頂きましたがチャージまではしてくれません。規則だそうです。どんな規則か分かりません。

○僕もどっこい！・・・「残念」

「帰る＝チャージしなければ！」が頭を支配。
後でジックリ考えたら、お釣りのコインで帰りの切符が買えたのに。ああそれなのに！それなのに！情けない！

○郵便局員の無情さ・・・「人間性の無さを一席」
・・・「ちょっと口惜しい」

銀行は閉っています。隣の郵便局、お札の交換(両替)は出来ないそうです。ちょっとしつこかったかな、冷たく「無理！」とダメ出しを頂きました。



○警察官はさすがに優しい・・・「笑いが戻る」
さらに隣の派出所に立ち寄りしました。説明の途中で、先ほど頂いた釣銭で帰れることに気づきました。大笑いです！バカですね！

○新たな問題・・・そして「ラッキー！」
JR改札脇の事務所にビニール傘を忘れていることに気が付きました。

先ほどもそばにいた美人駅員さんが運よく対応してくれました。

○美人でもロボットはロボット・・・「それでも美人、だけどアンラッキー」

話もスムーズで、ビニール傘を受け取れることになりました。が、「何か身分証明書をお持ちですか？」の一言で全てがご破算です。

「規則で渡せない」と。たかがビニール傘と訴えたのですが・・・。

○青砥三郎左衛門の真似は出来ない・・・「すべて

は国の宝なのに！」

電車賃を払ってまで受取には行けません。

○身分を証明できないと殺されちゃう国もあるらしい・・・。「ご褒美ゲット」マイナンバーカードを申し込みました。まだ受け取っていませんが5,000円を頂けるそうです。

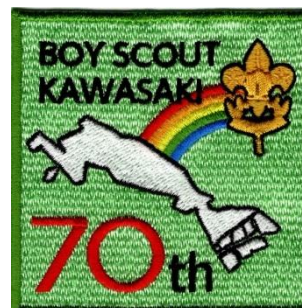
○世の中の変化についていけるかな？・・・「スカウト運動も」

スカウト運動も僕の子供の時とはだいぶ雰囲気の違いです。何でもかんでも変わってくん(いくの)ですね！

【川崎地区協議会・創立 70 周年記念事業】

事務局

ご承知の通り川崎地区協議会は、昭和 26 年(1951 年)3 月に発足して以来、今年で 70 周年となり



りました。今年度事業計画では各種記念行事が企画されています。

・キックオフイベント
4 月 18 日「(日) 地区総会後に行われ、各種事業の開始を宣言しました。

・スカウトフェスタ

10 月 3 日(日) 横浜市青葉区にある「こどもの国」を会場に展開されます。

・記念式典

令和 4 年 2 月 6 日(日) 川崎市総合福祉センター(エポック中原)で実施されます。

・70 周年記念誌

70 年の軌跡を振り返り、今後の地区活動の指針となるように編纂作業が進められています。

・実行委員会

それぞれのイベント毎に実行委員会が設けられて、実行委員により準備が進められています。コロナ禍の中での進行であるため、打ち合わせ会議は殆ど「オンライン」で行われていますが、一日でも早くコロナが収束して無事に各事業が開催されることを願っています。

[ボーイスカウト日本連盟 創立 100 周年記念事業]

「スカウティング」誌 7 月号より抜粋



ボーイスカウト日本連盟は、大正 11 年(1922 年) 4 月前身である「少年団日本連盟」が発足しました。太平洋戦争による中断等もありましたが来年、令

和 4 年(2022 年)創立 100 周年を迎えます。

概略次の記念事業が予定されています。

- ・ 祝賀事業
記念式典、レセプション
- ・ 全国キャラバン・建設連盟記念事業
新たに内容を発展させる防災キャラバン
新たな自然環境調査プロジェクト
- ・ 第 18 回日本スカウトジャンボリー
8 月東京中央会場と全国 6 ブロックサテライト会場で分散開催。8 月 7 日東京ジャンボリー大集会/全国の代表スカウトが集まり、全国とオンラインでつないだ 1 日型プログラム
ジャンボリーサマー 2022
- ・ 特別表彰事業
新たな章の創設、100 周年特別表彰
- ・ 記念誌編纂事業
日本ボーイスカウト運動史Ⅲ
100 周年史(上巻)
- ・ スカウトミュージアム建設事業
那須野営場の整備、施設建設
収蔵品のデジタル公開
- ・ 特別募金事業
100 周年を契機としたミュージアム
(デジタル・リアル)
未来の子どもたち支援の募金
- ・ その他の事業
記念ソング制作/記念切手発行/BS 展示会開催
「現在、計画中のもので、今後変更の可能性が
あります。」と注釈がありますが楽しみです。

会 員 募 集

当クラブは一昨年発会 11 周年を迎えました。活動目的として「より幸福な生涯を究めて会員同士の体験学習から楽しさを味わい、成果を生かすため、地域社会・スカウト運動に参画する」ことを目指しています。

ハイキング、ディキャンプ、親睦旅行などを通して、楽しみながら活動しています。

どなたでもご参加いただけます。

お問い合わせは下記へご連絡ください。

連 絡 先

事務局 わたなべ いさお 渡部 公

電話 045-973-8580

E-mail: ciao.14125@kce.biglobe.ne.jp

『お知らせ』

昨年から続いている“コロナ禍”により行支部、奉仕部で計画している事業が「緊急事態宣言」も連続して発令されているため実行出来ない状態です。「高齢者はワクチン接種が済んでいるから大丈夫では」との意見もありますが公共施設や公園も閉鎖されていますので、もう暫く「宣言解除」が出る日まで待ちたいと思います。(事務局)

編集後記

- ・ 今号も皆様から投稿していただき編集ができました。ご協力有難うございました。
- ・ 大雨が降ったり、猛暑が続くのも地球温暖化の影響と言われています。日常生活で温暖化防止に出来ることが多くある様です。頑張りましょう。
- ・ 次号第 38 号は来年、令和 4 年 1 月 20 日発行を予定しています。主テーマは『私の宝物』と題して皆さんから原稿を募集します。BS 以外の内容でも結構ですので、よろしくお願いします。
- ・ 表紙写真は「ツリバナ(吊花)」(ニシギキ科)の実で、丸い実が 5 つに割れて赤い種子を吊り下げて目立つ、変わった木です。(渡部)